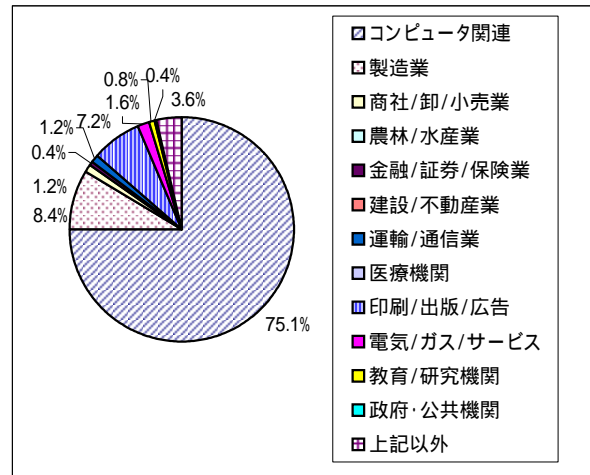


# XMLコンソーシアム2002年度「XML & Webサービス普及度アンケート」集計結果

実施期間: 2002/12/27 ~ 2003/01/21 回収総数: 237件 / 263会員 = 90.1%

## 1. 主要業種

コンピュータ関連	187	75.1%
製造業	21	8.4%
商社/卸/小売業	3	1.2%
農林/水産業	0	0.0%
金融/証券/保険業	1	0.4%
建設/不動産業	0	0.0%
運輸/通信業	3	1.2%
医療機関	0	0.0%
印刷/出版/広告	18	7.2%
電気/ガス/サービス	4	1.6%
教育/研究機関	2	0.8%
政府・公共機関	1	0.4%
上記以外	9	3.6%
合計	249	



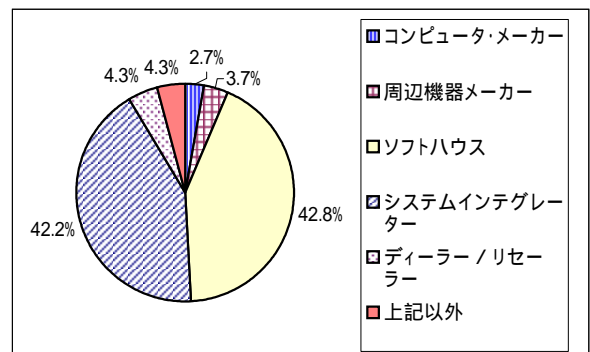
「上記以外」 -> 詳細

- ・ ハード、ソフト、サービスを核とする情報処理全般
- ・ 統合エンジニアリングサービス
- ・ IT関連のアウトソーサー
- ・ 報道
- ・ マイクロフィルムを基本とする情報媒体の変換業務
- ・ 著作権使用許諾管理
- ・ 人材派遣およびIT教育
- ・ 技術支援
- ・ コンサルティング

**製造業の会員が増えました！**

## 2. コンピュータ関連の内訳

コンピュータ・メーカー	5	2.7%
周辺機器メーカー	7	3.7%
ソフトハウス	80	42.8%
システムインテグレーター	79	42.2%
ディーラー/リセラー	8	4.3%
上記以外	8	4.3%
合計	187	



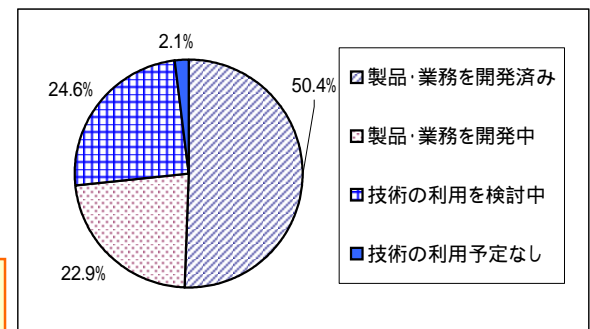
「上記以外」 -> 詳細

- ・ ビジネスプロデュース
- ・ IT技術者の養成、SI
- ・ コンテンツプロバイダー
- ・ 情報処理
- ・ 技術書の翻訳と執筆
- ・ ソフトウェアベンダー
- ・ 教育関連
- ・ 教育サービス

## 3. XML普及度アンケート

### 1) XMLに対する取り組み状況

製品・業務を開発済み	122	50.6%
製品・業務を開発中	55	22.8%
技術の利用を検討中	59	24.5%
技術の利用予定なし	5	2.1%
合計	241	



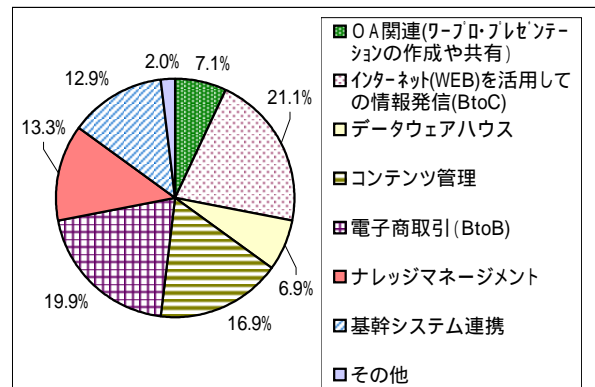
開発済み製品・業務リストについては別紙

**前回調査に比べ、開発済み+開発中=増加です！！**  
**XML関連ビジネスを行っている会員さんでも**  
**「XML技術利用予定なし」と回答されているケースがあります。**  
**精査結果では、利用予定なしは1%未満となりました。**

## 2) XML技術の適用領域

(複数選択可)

OA関連(ワークフローアプリケーションの作成や共有)	57	7.1%
インターネット(WEB)を活用しての情報発信(BtoC)	170	21.1%
データウェアハウス	56	6.9%
コンテンツ管理	136	16.9%
電子商取引(BtoB)	160	19.9%
ナレッジマネジメント	107	13.3%
基幹システム連携	104	12.9%
その他	16	2.0%
合計	806	



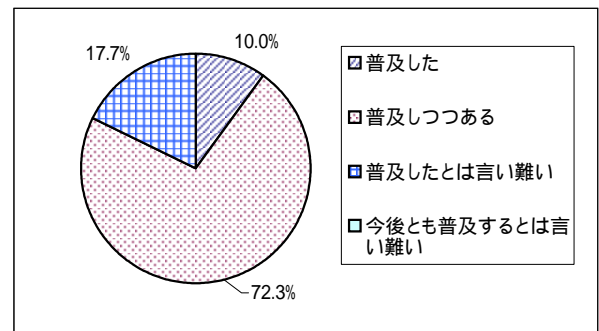
「その他」 -> 詳細

- ・異なるプラットフォーム間のあらゆるデータ交換に適している
- ・個々に意味合いのあるデータとして表現したい場合、全般。
- ・医療情報
- ・電話端末を利用した情報伝達
- ・デバイス間通信等の機器自体のエンジンにも適用可能
- ・列車ダイヤ情報?
- ・特定分野に限らず、さまざまな技術のインフラとして
- ・使える範囲は非常に広い
- ・DTP等印刷物への展開
- ・EIP
- ・EAI
- ・技術マニュアル、公文書、様々な構造化ドキュメント
- ・インターネット(We b)を活用しての情報発信(B to B)

前回調査に比べ、データウェアハウスとナレッジマネジメントの比率が増えました。

## 3) IT業界におけるXML技術の普及度合い

普及した	23	10.0%
普及しつつある	167	72.3%
普及したとは言い難い	41	17.7%
今後とも普及するとは言い難い	0	0.0%
合計	231	



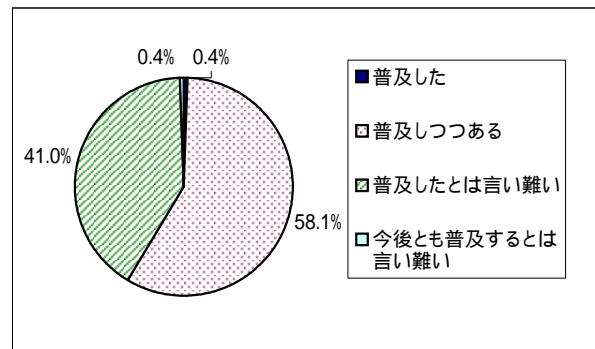
前回調査に比べ「普及した」が7%増えました!

「普及したとは言い難い」コメントからの抜粋

- ・開発ツール、XMLへの移行ツールがまだまだ不十分
- ・見えない部分ではかなり普及しているが、限られた所で使われているように思われる
- ・金融関連ではこれから普及すると思われる
- ・メーカーが先行しているだけで、他がついてきていない

## 4) ユーザー企業におけるXML技術の普及度合い

普及した	1	0.4%
普及しつつある	133	58.1%
普及したとは言い難い	94	41.0%
今後とも普及するとは言い難い	1	0.4%
合計	229	



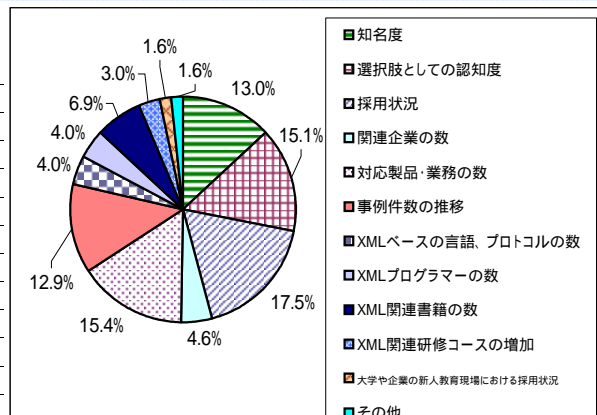
「普及したとは言い難い」コメントからの抜粋

- ・個別活用は進んでいるが情報交換基盤としての標準化や活用が十分ではない
- ・業務とXML技術のマッチングがイメージ出来ない
- ・XML化に伴うメリットを享受できるほどの魅力的なソフトがない
- ・XMLを使わなくとも、課題解決できる。
- ・XMLのメリットが理解できていない

## 5) 普及度合いの判定基準

(複数選択可)

知名度	87	13.0%
選択肢としての認知度	101	15.1%
採用状況	117	17.5%
関連企業の数	31	4.6%
対応製品・業務の数	103	15.4%
事案件数の推移	86	12.9%
XMLベースの言語、プロトコルの数	27	4.0%
XMLプログラマーの数	27	4.0%
XML関連書籍の数	46	6.9%
XML関連研修コースの増加	20	3.0%
大学や企業の新人教育現場における採用状況	11	1.6%
その他	11	1.6%
合計	667	



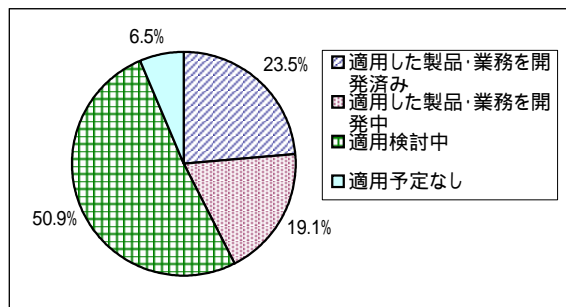
前回調査に比べ、「採用状況」および「対応製品・業務の数」が増加しました！

## 4. Webサービス普及度アンケート

### 1) Webサービスに対する取り組み状況

適用した製品・業務を開発済み	54	23.5%
適用した製品・業務を開発中	44	19.1%
適用検討中	117	50.9%
適用予定なし	15	6.5%
合計	230	

開発済み製品・業務リストについては別紙



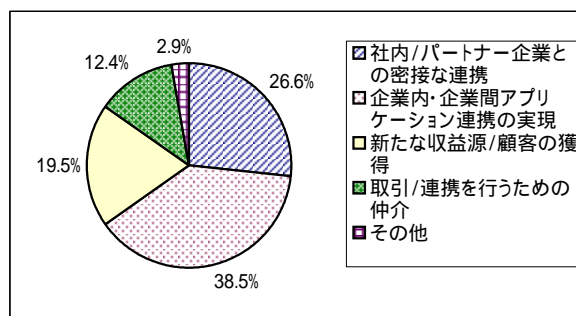
前回調査に比べ、「開発済み」が増加しました！

### 2) Webサービスを適用したい領域

社内/パートナー企業との密接な連携	101	26.6%
企業内・企業間アプリケーション連携の実現	146	38.5%
新たな収益源/顧客の獲得	74	19.5%
取引/連携を行うための仲介	47	12.4%
その他	11	2.9%
合計	379	

「その他」 -> 詳細

- ・ 素材としてのSOAP、WSDL
- ・ 疎な結合にてのアプリケーションのやり取りに適しているもの。
- ・ 医療関連情報の提供
- ・ デバイス間の相互接続及び動作
- ・ インターネットを介したシステム間の疎な連携
- ・ エンターテイメント分野
- ・ 組み込み機器など非PCデバイスとの連携
- ・ 組み込み機器の監視制御
- ・ 普遍的な標準技術による、恒久的なサービス体系

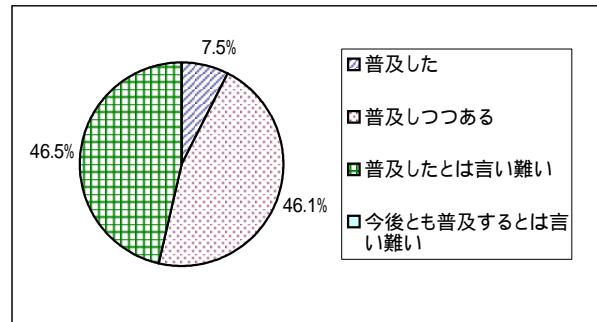


### 3) IT業界におけるWebサービス技術の普及度合い

普及した	17	7.5%
普及しつつある	105	46.1%
普及したとは言い難い	106	46.5%
今後とも普及するとは言い難い	0	0.0%
合計	228	

「普及したとは言い難い」コメントからの抜粋

- ・金融業界はこれから普及の過渡期に入るとされる
- ・商用ベースを含めてオープンなWebサービスがない
- ・大半はEarly Adaptorの状況注視
- ・多種多様な製品、技術が乱立し安定していない
- ・まだビジネスモデルが明確になっていない
- ・具体的、実用的な事例が少ない

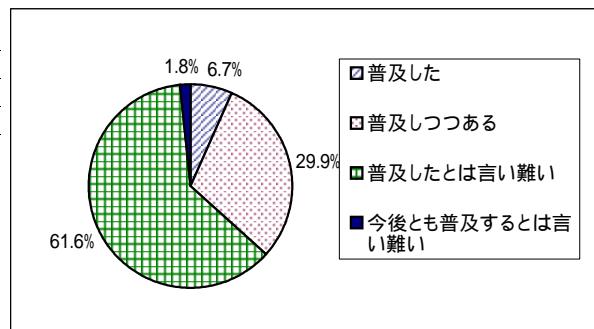


### 4) ユーザー企業におけるWebサービス技術の普及度合い

普及した	15	6.7%
普及しつつある	67	29.9%
普及したとは言い難い	138	61.6%
今後とも普及するとは言い難い	4	1.8%
合計	224	

「普及したとは言い難い」コメントからの抜粋

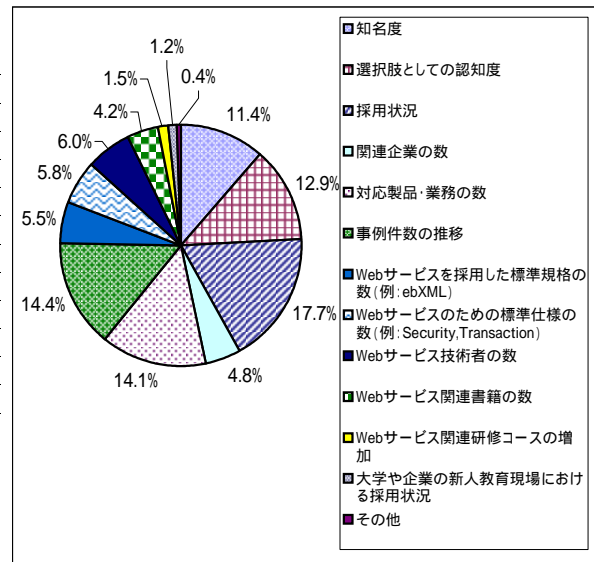
- ・技術先行に過ぎる、実益見えず、話題にすらなっていない
- ・実ビジネスにつながっていない
- ・ビジネスプランが作れない
- ・利用したくて、かつ利用しやすいサービスが登場していない
- ・現実の業務への適用はこれから
- ・Webサービスのメリットをどう活かすかについて判断ができていないため、既存技術での対応が継続しているように見える



### 5) 普及度合いの判定基準

(複数選択可)

知名度	76	11.4%
選択肢としての認知度	86	12.9%
採用状況	118	17.7%
関連企業の数	32	4.8%
対応製品・業務の数	94	14.1%
事例件数の推移	96	14.4%
Webサービスを採用した標準規格の数(例: ebXML)	37	5.5%
Webサービスのための標準仕様の数(例: Security, Transaction)	39	5.8%
Webサービス技術者の数	40	6.0%
Webサービス関連書籍の数	28	4.2%
Webサービス関連研修コースの増加	10	1.5%
大学や企業の新人教育現場における採用状況	8	1.2%
その他	3	0.4%
合計	667	



判定基準は、やはり「採用状況」と「事例件数」です！